

第 1860 回例会報告

令和 7 年 3 月 6 日(木)曇

◇会長告知◇

【出席報告とニコボックス】



会長 太田 淳也
皆さん、こんにちは。
諏訪湖の「御神渡り」も今年も残念ながら明けの海となり、地球温暖化の影響により、これから先「御神渡り」がこの諏訪湖に出現するのか？と心配に思う今日この頃であります。
さて、今月 3 月は「水と衛星月間」の月となっております。この下諏訪の水は本当に美味

しく、私自身毎朝起きて、コップ一杯、夜寝る前にもコップ一杯を毎日必ず飲んでます。思えば、昨年の 10 月に初めてセブ島に行かせて頂いた時に、現地では、水道の水を絶対に飲んではいけないと、成山会員から聞かされ、歯磨きでさえも、水道水でなく、ホテルの部屋に置いてあるペットボトルの水を使うように言われて、歯磨きをした事を思い出しました。

世界では、まだまだ日本のように水道水を飲む事が出来ない国が、たくさんある事に、改めて、今の自分の生活に於いて、あたりまえのように水道の水が飲める事の幸せに感謝しなければならぬと改めて思われました。

生活に欠かすことの出来ない「水」に、今月のロータリークラブの月間テーマである「水と衛星月間」をしっかり心に刻み込み、私達の生活にあたりまえに飲む事の出来る「水」、また、あたりまえにある「トイレの水洗」に感謝して、大切に使いたいと思います。

◇幹事報告◇ 幹事 小笠原 仁

【連絡事項】

- 3 月 13 日 18 時半より、マリオにて、小林聖仁会員の瀬戸山賞受賞を祝う会を行います。出欠表を回覧いたしますので、ぜひ多くの会員の出席をお願い致します。
- 昨日、事務局からメールを転送いたしました。4/6 オンラインで地区研修協議会がございます。次年度理事の皆様は、出席をお願い致します。

【受領文書】コーディネーター NEWS、月信、ロータリーの友



■ 2 月 16 日 IM(1858 回例会)

出席報告		ニコニコボックス	
		利用人数	今回の金額
会員数	31 人	0 人	0 円
出席対象	29 人		
出席者数	15 人	前回累計	506,000 円
出席率	51.7%	累計	506,000 円
前回修正出席数	人	目標額	60万円
前回修正出席率	%	達成率	84.8%

■ 1860 回例会

出席報告		ニコニコボックス	
		利用人数	今回の金額
会員数	31 人	11 人	24,000 円
出席対象	29 人		
出席者数	16 人	前回累計	506,000 円
出席率	55.2%	累計	530,000 円
前回修正出席数	人	目標額	60万円
前回修正出席率	%	達成率	88.3%

ニコメッセージ

クラブ会報担当例会です。よろしくお願ひします。萩田 均
先月 24 日孫娘が結婚しました。孫娘の花嫁姿が見られて良かったです。 林 洋三

(メッセージ無し) 宮坂 英貴

◇誕生祝◇



林洋三会員 85 歳、北原厚子会員 75 歳になられます。



SUWAKO ROTARY CLUB WEEKLY

◇委員会報告◇

今週末、大津中央ロータリークラブの40周年記念式典に、楽しんで参加して参りたいと思います。またご報告させていただきます。



◇例会内容◇

クラブ会報・雑誌広報委員会担当例会
「青少年奉仕についてのクラブ計画策定会議」



～トピックス～

3月6日夜、塩天井にて会員増強委員会が開催されました。



クラブ会報・雑誌・広報委員会
40周年実行委員会記念誌部会
クラブ戦略/長期計画委員会

例会、委員長主旨説明

この例会ではクラブの未来について検討いただきました

め開催しています。クラブ会報はそのまま記念誌部会でもあります。中長期計画は必要ですし、そのたびに洗い直しのため会議をしています。1月には社会奉仕について、2月には国際奉仕について夜間会議により話し合われました。3月はこの例会におきまして青少年奉仕についてグループディスカッションさせていただきます。議題、A グループはつつじが丘学園支援交流について、B グループは小中学生と諏訪湖清掃・里山整備について、C グループはボーイスカウト、ガールスカウトの交流支援、中学校職場体験学習、講師派遣、ライラなど地区青少年事業などについてです。それぞれ小笠原会員、宮澤会員、小口会員のファシリテーターのもとに話し合いをします。

今、子供たちを取り巻く環境は大きく変わってきております。3年前の教育委員であった時には子ども食堂や居場所づくりの下諏訪町の補助に申請が年間に数件、それぞれ年1回から数回の申請でした。これで7人に1人貧困の子供(学校1クラスに5~6人いる)救えるか疑問に思ったものでした。現在、下諏訪においては夏休みと春休みのほとんどの日に下諏訪総合文化センターの場所を借りこども食堂が開設されています。それ以外は学校給食が救いです。また、食材の支援や手配、企業からの補助を扱う組織など、大きな輪になっています。居場所づくりも同様です。国においてもこども家庭庁ができ、各自治体行政も積極的に取り組みを始めています。そこで私たちの立ち位置はどこにあるか、どのように続けていくのかを話し合う機会にしたいと思います。青少年奉仕の中長期計画を策定のためよろしくお願ひします。まとめについては記念誌に発表していきます。